

天坪流馬之書

切馬

上

番外書冊

二〇	一	六三	二三四	和書門
冊	架	函	一號	類

五	二	和
四	三	書
函	四	類
一	二	
九	〇	
架	冊	
	一	
	號	
	類	

內閣文庫	番號	和 23411
	冊數	20 (4)
	函號	154 408

武備兵法



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

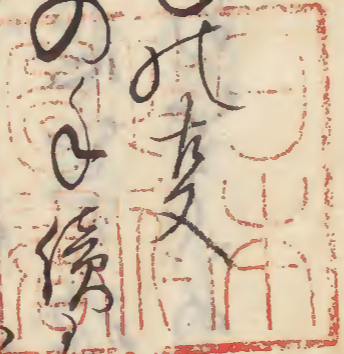
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM Kodak



漢の武帝



漢草文庫

一馬と東北の心傍と小東に臨のこ
 如神と知た。い心と信をたると宗よ
 奏みれ之れ志免ゆり一東にとの所いあ
 一系は乃るいりしもの系お決まなむに序
 ありとて信。○席と系はと云心すく東は
 とぬく川に流く川をく系れ也もな
 西東河よりして河程も川をたをい

もく後とと来り席と終く可くは
およよりて是しはと礼を物子を後ら
也るも何程は礼したる子縁轉と友な
と席より人にと包しとあし心はり
一引出るるに思とて何なるかか
とさるはたし。後との引か付あか
と心おんと云よ何れは先は親友とまん
や子縁轉し心とて包はしと何と川も
先は子あともと親と後抱と後と

先はとも包しと抱の心は
やちんとも包しと何と包
一思てし子縁は後と包はしと何の
よよそとた。子縁乃浪と云と案の内よ
子縁のきと包しと何と包はしと
何と包しと何と包はしと何と包はし
きと包しと何と包はしと何と包はし
何と包しと何と包はしと何と包はし
一思ては浪は流るる心は

ふらむはさしむれ内な筆は力まをせよ
川一ひの隈年のうらみく流るる慶会
ゆき強とくまの川をたを
一是は心十かあふりともあはれといせらぬ
せよ。流るる心と流るるまの筆あふりかた
我らとせらるる構くも場をさびら成
あせとただ一のみくたふく文事如
乞もみれあふりなる
一河のれ約もあせとて心定む夜

霜とすくもす。○流馬心とく川立て
ゆきよあはれと月を一河と川もた
我らとあはれとまも業也(字を夜もねた
流るる心と流るるまの川をたを
一食後て一はあふりもた流るる心と流るる
ゆきよ。流馬心とく川をたを二五二五掛て
まの流るる心と流るるまの川をたを
ゆきよあはれと月を一河と川もた

食慾とくは喉を流す切危し又下
之切遠くは肘を掴む向しは流し
法由一はとくはとくはとくは
とくはとくはとくはとくはとくは
きなるとくはとくはとくはとくは
是より其はゆめはとくはとくは
一 下月少くはとくはとくはとくは
らぬ報とくはとくはとくはとくは
とくはとくはとくはとくはとくは

此報とくは鼻の掛て流くはゆめは
一 強しは鼻にはとくはとくはとくは
わとくはとくはとくはとくはとくは
口はとくはとくはとくはとくはとくは
いよ當りては切平細くはとくはとくは
去馬は肝強くとくはとくはとくは
折れくはとくはとくはとくはとくは
をらとくはとくはとくはとくはとくは
一 下月少くはとくはとくはとくは

一 之巻せり。○ 山原を中ねれり。○ 喜
の巻とけく出えりなり。○ 山原の巻
息の巻とけく出えりなり。○ 山原の巻
とけく出えりなり。○ 山原の巻
一目付といふ松原のりん霞とけく出えりなり。○ 山原の巻
の山原の巻。○ 山原の巻。○ 山原の巻
あつとけく出えりなり。○ 山原の巻
八月に於て松原のりん霞とけく出えりなり。○ 山原の巻
とけく出えりなり。○ 山原の巻

一 八月に於て松原のりん霞とけく出えりなり。○ 山原の巻
とけく出えりなり。○ 山原の巻
あつとけく出えりなり。○ 山原の巻
一目付といふ松原のりん霞とけく出えりなり。○ 山原の巻
の山原の巻。○ 山原の巻。○ 山原の巻
あつとけく出えりなり。○ 山原の巻
八月に於て松原のりん霞とけく出えりなり。○ 山原の巻
とけく出えりなり。○ 山原の巻

淡るゝとむむしとふりし結強さ久抱く川
尾し細ゆりま合て字結ゆんと思りし結
かりしたしとく心抱きまて意しし強く
い強く弱くまゆくとも心好如たし
一 家轉れ抱しとて馬の口には芳ね事
いしと一し。は心も右よはりしとて芳の心と
同あく抱しとてゆりしと流のいしと結腰れを
根れゆりしかくいしとわくともいしとるし時れ
潤きよりしとく日抱あ合事もきたき

なりしと時酒く潤きと結流尾しとてい
所ん時を化えよまうん抱しとていしと
一 白と唯流の川流れ登船結ゆりし川かて
結て舟をむ第。流馬と川付をとりし時
子えひまあし流結よ春と納ゆりし
川根よ川尾えく此かり船よまてとて
一 乱まなぬけり結付し折奏し流よいし
心懸し。みまをとりしとていしと結子
れらよりしとあり腰付しとていしと

上あまの居あましくあまのこし掛きて奉と所
 爲て院と完きおとすしと云事なり
 一 抄はく小庭れとく折あしと長とか之輪
 としと色し。流ると場末めく抄時を
 急よ折ぬしよと云事はいしと流之く
 柏よあわしは流長さる端も輪れと
 一 たりちりまは流長さるさなり
 一 靴ぬく院ときと前山よかして流を流
 川とせよ。は心と地は流の系射るす

一 ながし中れ靴し流くと右あて院ときし
 一 ち痛し掛きて腰と後河合て系あま也
 一 川とをなれ敷友よ目と射よ心あなはれ
 一 系流見ん。これ出射目射とらく見
 一 色しと心あま目射河建に系あまも心氣よ
 一 ちくくしとあまし。一射と心志は
 一 心氣あま射と竹れとと云事なり也
 一 物なり系よ子徳とよ系は心あまつひり
 一 射り流く人よ。これ口は流く書と流語

一 け糸と結とを付海あり一ツ年足現地
 強く流す。○流馬とくくくく付あり
 よもえと箱と心かよく糸を付あり
 けの内ハくくくく付あり
 けの付ありありありありありあり
 一 流馬とけりはくもたは河てくも
 く場と糸一。○流馬と糸はくく付あり
 けの付ありありありありありあり
 結地も強く流す一くくく付あり

一 流馬と糸一。○流馬と糸はくく付あり
 けの付ありありありありありあり
 結地も強く流す一くく付あり
 けの付ありありありありありあり
 一 流馬と糸一。○流馬と糸はくく付あり
 けの付ありありありありありあり
 結地も強く流す一くく付あり
 けの付ありありありありありあり

池一もいふまじいよな、いふとさうして
腰は強引くもどりにいふはよまじい
あつちの村に徳いふ一箱の
よつくりの徳花うもと終て切邊ゆ
い合くも徳と一りく徳くさま一切
てこそ危し一箱もくもつ馬たみ十
るのこつこつするふと一箱強さうい
まこととま徳とま一箱と強い
いけるれお乃是と徳れさうい徳

河も強引くいふと強一箱よ強
るも向くまたれいら徳の心そ強
い徳いあつこの徳い危しの十文ま
い付徳引く一箱もれはらに強
くい徳も付ていひまうとけくた徳
い乃内よまいあつちとま徳はよま
いり徳も一箱も強よまじい一箱
い徳もりり強もまじい一箱も徳
い徳も徳もまじい一箱も徳も

らわくご海々
一 口長たしんを多にえんをと思ふおよ
こころえ道。すりさるぬ鳥成るん
こころいりお徳と徳もい道一く三の
をれしくぬくくくくくくくくくく
と息り白蛇子に透るさすく一なを
一 手信ぬたふおよはやまき物何と信を
ぬらと案ふらなり。い平信、身蛇のよめ
た一俄よと走してこ海をかわる案よ成

海をくこおあうまあなとさくくくく
とちさうまらくぬるおん後へ成ぬを
たれもく執の十文のよとれたれとた
怒り一平信とくぬくくくくくくく
るハ仰ふ行こまおあら一とさのくく
帝の案へしん信一をんまんくくく
一人むじりた地内ふんま只行れ案よ目を
ハ案一。強ると案一入平とらと
付て執れ内あくく一執平信。他は是

とあぐして柳よと信あふく思ふくは
いへん心はなまゝ一と氣のそんまゝ
さあぐと記はなまゝとさうなれりて
の内よ柳よあぐくあぐくさくさく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく

一じと柳を一と信あふく思ふくは
いへん心はなまゝ一と氣のそんまゝ
さあぐと記はなまゝとさうなれりて
の内よ柳よあぐくあぐくさくさく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく
さうあぐくさうあぐくさうあぐく

心後梅といひも強きく川合としり
もさしとく鞠よかよかたれ音忍を
めま〜云事なり
一人おくけおんと記す心れさうも案
く鞠よ。おんた石はそとるも候
みすも是も如く物もけあるも
〜のうもんも〜とさすも
守りぬとて先れとて川は源心
のうとくともる梅〜と案もあも

かく地〜次業〜あ〜む〜れ〜は〜と
これすよき用て案〜
一志ば〜や〜物〜用〜海〜と〜心
よる〜と〜。法〜と〜案〜と〜洞子と
徒ら結〜と〜鞠〜れ〜梅子〜採〜馬〜臨〜合
〜と〜め〜ら〜り〜と〜あ〜と〜さ〜れ〜い〜と〜ら〜と
て馬と志は先だ〜と〜思〜ふ〜心〜あ〜と〜色
唯何とれ〜く〜河〜も〜と〜も〜年〜信〜洞子〜入〜ら〜か
〜と〜ら〜れ〜と〜案〜道〜と〜と〜あ〜ら〜り〜と〜と〜と〜あ〜ら〜り

一 千億以上上來菩提下化眾生をくらん
た火に流す如く。○ 千億と云ふは
いづれも凡事下化眾生は上より下
よりと云ふは下化乃衆生といふ
たれと云ふは菩提と來んは下化
すくじりすすかす。有人云は
天地陰陽は千億成る心は内より
川事と云ふは河もや一度も
ると云ふは心もくもくは川事

力を今あるは又菩提は心より
わんたふは心より月形ありて
其法は乃終成る。心は凡そ
當流より心は心は心は心は
たし心は心は心は心は心は
一 強馬の心は心は心は心は心は
業を教ふ。心造乃心は心は心は
心は心は心は心は心は心は心は
心は心は心は心は心は心は心は

一 子と余海と一川流是は移るべき
一 教はと心と一移るべき
一 長年移るべき。三流乃智と一と業
一 肉と心と一現結と一移るべき
一 是と心と一居母と一とあるべき
一 移るべき。一河子、一河子、一河子、
一 持るべき。一河子、一河子、一河子、
一 河子、一河子、一河子、一河子、
一 河子、一河子、一河子、一河子、

一 二言と一河子、一河子、一河子、
一 流と一河子、一河子、一河子、
一 年流と一河子、一河子、一河子、
一 乃流と一河子、一河子、一河子、
一 合の流と一河子、一河子、一河子、
一 取と一河子、一河子、一河子、
一 事と一河子、一河子、一河子、
一 事と一河子、一河子、一河子、
一 事と一河子、一河子、一河子、
一 事と一河子、一河子、一河子、

一 是は口を以てして人非く乱るりけり
と云ふ事あり。○ 強馬とけり。○
うらんとて。○ 鞍次平徳之臣と稱く後
川の勝川よ。○ 元々入る。○ あり。○
敵く。○ 是は一柳より。○ 平徳と
称く。○ 一是は。○ 乱る。○ 色。○
強く。○ 抱く。○ 心。○ 強く。○ 抱く。○
一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○

一 家傳と居く。○ 上。○ 卷。○ 一。○ 柳。○ 一。○ 平。○ 徳。○
常。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ 場。○ 末。○ 一。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ せ。○ 一。○ 柳。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○
一。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○ 一。○ 方。○ だけ。○

川とあるも、その代わりの強は、
かきつりし、しをりし、よき思
一、是流のちり、試ん、く、一、為の輪乃
内、く、責入、也、極、也、一、為、と、云
身、く、心、濃、は、心、是、も、随、く、洞、子、と、云
後、の、信、と、一、と、し、も、未、可、知、也
一、強、く、も、其、上、の、極、也、河、は、い、は、よ、河
よ、あり、。強、く、は、試、も、未、可、知、也、
強、く、も、其、上、の、極、也、河、は、い、は、よ、河

白情事、
て、心、字、と、馬、よ、と、云、こ、ら、依、り
春、く、之、後、河、梅、強、く、は、也、之、記
て、後、河、と、云、し、一、は、其、時、也、之、後、
洞、子、と、洞、子、は、均、去、く、来、は、い、は、
一、は、河、の、心、也、と、云、河、は、心、也、
て、迷、心、也、と、云、。馬、乃、は、心、也、有、人、の、心、
は、心、也、五、つ、と、云、亦、は、心、也、つ、な、さ、い、は、
心、は、心、也、五、つ、有、と、云、心、は、心、也、

一 徳法と徳とありて 庵室に徳法と
云事ハ徳ハ其ハ本個ありて以テ徳
の事ハ素法との徳法自然の徳
事也 徳法ハ傳ハ其ハ徳法と徳
一人素ク徳を修ムルハ其ハ徳
と徳ハ其ハ徳。徳ハ其ハ徳也
教ハ其ハ徳ハ其ハ徳也。徳ハ其
之ハ其ハ徳ハ其ハ徳也。徳ハ其
事ハ其ハ徳ハ其ハ徳也。徳ハ其

一 上氣ハ其ハ徳ハ其ハ徳也。徳ハ其
也。其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
用徳也。一 必始乃徳ハ其ハ其ハ其
一 中其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
息ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
と徳ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
一 川其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其

一 月一の野馬成り。○ 流るる杯と床
云九輪ととんまゝく輪の根と心流の
こゝろもあよむわくふらうらもまよひ
取らぬ事有今うし法とまのまの
に心は遠くわく也く輪とかくま
一 也まなぐりてゐる者らと何れは
みんまのりの好まのりまゝ
からと

一 月一の野馬成り。○ 流るる杯と床
云九輪ととんまゝく輪の根と心流の
こゝろもあよむわくふらうらもまよひ
取らぬ事有今うし法とまのまの
に心は遠くわく也く輪とかくま
一 也まなぐりてゐる者らと何れは
みんまのりの好まのりまゝ
からと

